

2012年9月20日

アメリカ合衆国大統領
バラク・F・オバマ 殿

日本原水爆被害者団体協議会

Zマシンによる核実験に抗議する

エネルギー省国家核安全保障局は、昨年11月につづき今年4月から6月の間にもZマシンと呼ばれる強力なエックス線発生装置を用いて核爆発に近い超高温、超高压状態をつくり出してプルトニウムに照射し、安全性、有効性について調査する5回目の実験を行なったことを公表した。

67年前の8月、広島と長崎で、人類史上初めて原子爆弾の攻撃を受けた私たち被爆者は、自らのからだに心を受けた深い傷を抱えながら、ふたたび被爆者をつくってはならないという強い決意のもと、一日も早い核兵器の廃絶をもとめて世界に訴えつづけてきた。

大統領は、「核兵器のない世界」を自ら提唱しながら、核兵器の使用を前提とした実験をつづけ自国の核兵器を維持する姿勢を変えていないことに、私たちは、強い怒りを持って抗議する。

われわれは要求する

- 1) 「核兵器の使用と威嚇は国際法に違反する」とする国際司法裁判所の勧告的意見を真摯に受け止め、臨界前核実験の計画を永久に放棄すること。
- 2) 2009年4月プラハで行なった演説で言及した「核兵器のない世界」のすみやかな実現を図ること。
- 3) 核兵器廃絶のための国際条約締結に向けた多国間交渉をただちに開始すること。